

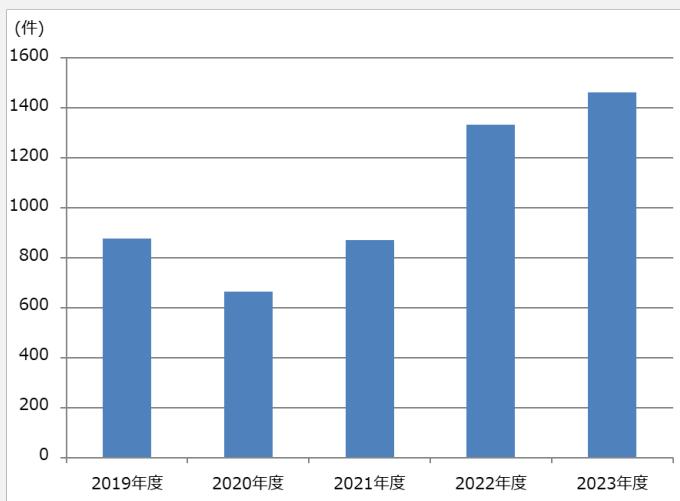
# 「お客さま本位の業務運営方針」に係る主な取組状況

明治安田アセットマネジメント（以下「当社」）における、「お客さま本位の業務運営方針」に係る主な取組み、および取組みに係る定量指標は次のとおりです（2024年6月現在）。

## 運用の高度化

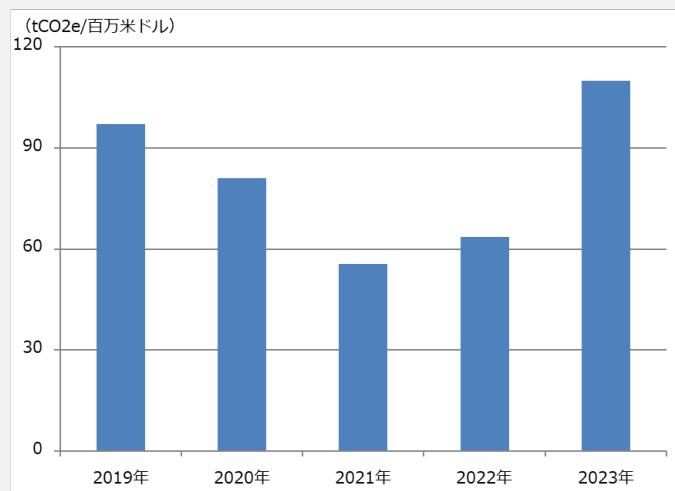
- E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）を考慮したエンゲージメント活動の実効性向上に取り組み、調査対象銘柄に対するESG社内格付（ESGスコア）を付与し、運用プロセスへのESG要素の反映に取り組んでいます。また、スチュワードシップ活動の振り返りと自己評価を行ない継続的に公表しています。  
▶ [サステナビリティ・レポート2023（PDF: 5.11MB）](#) 
- 当社は、投資先企業の財務情報のみならず、環境・社会・ガバナンス（ESG）等の非財務情報も適切に考慮した企業価値評価・運用に取り組んでいます。投資先企業に非財務情報の情報開示を促すとともに、投資先企業とのエンゲージメント（対話）を通じた課題の共有と、その解決、ひいては企業価値向上・持続的成長に向けて働きかけを行なっています。
- また、「The Net Zero Asset Managers initiative (NZAM)」、「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」、「国連責任投資原則(国連PRI)」などの気候変動対応に係る国際的枠組みに参画し、グローバルなネットワークの構築、関係機関との協働、目標設定と情報開示、国内外のサステナビリティ動向に関する情報収集等の活動を行なっています。これらの活動により得た知見を、運用の高度化につなげています。
- 運用の高度化等に資する人財育成に継続的に取り組んでおり、社員の教育・研修等、人財開発事項を専担とする「人財開発部」が教育訓練計画を取りまとめ、キャリア形成支援メニューの体系化や拡充等、人財育成体制の強化を推進しています。また、新卒採用かつ入社5年以内の社員を中心に、資産運用ビジネスに関する幅広い知識や視野を身につけるための取組みを進めています。

【図1】企業との対話件数



当社は、日本版スチュワードシップ・コードに対応した取組方針を定め、特にボトムアップ・アプローチにもとづくアクティブ運用においては、投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を通じて持続的成長を促し、お客さまの中長期的なリターンの拡大を図ることをめざしています。

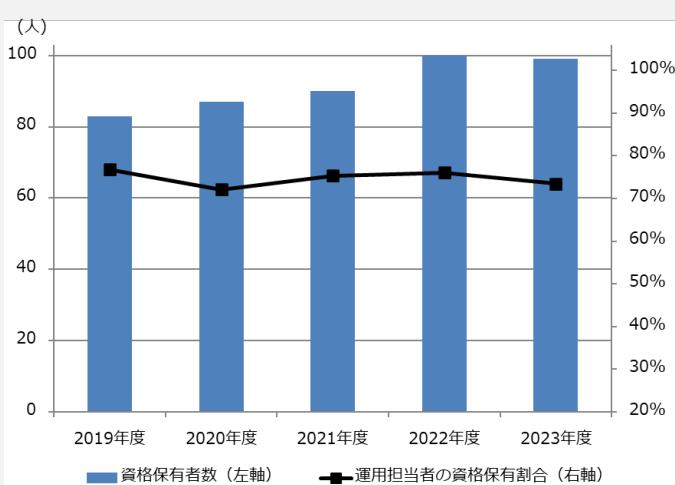
【図2】運用ポートフォリオのGHG排出量（カーボンフットプリント）



当社は気候変動問題解決への取組みとして投資ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量のネット・ゼロ実現をめざしています。

※国内株式・国内債券・外国株式・外国債券全体の数値

【図3】証券アナリスト資格保有者数（運用担当者の資格保有割合）



クオリティの高い資産運用サービスを提供するために、資産運用プロフェッショナルとしての人財育成に努めています。

## お客さまにふさわしい商品・サービスの提供

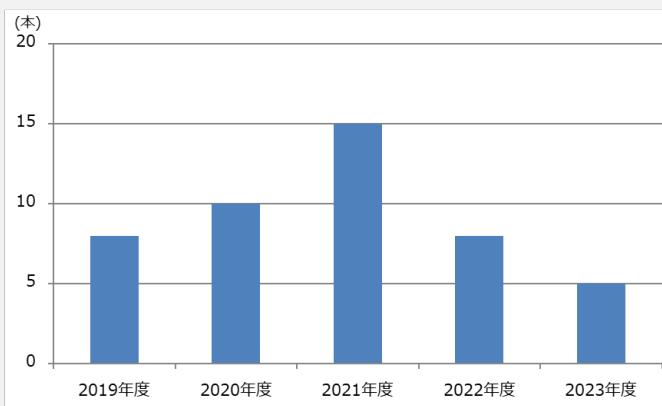
- 多様なお客さまニーズと中長期の資産形成に応えるため、幅広いカテゴリーの中から最適な新商品の開発、提供を行なっています。また、市場環境に応じ既存商品のプロモーションを推進する等、利用者の利便性向上に継続して取り組んでいます。
- 運用会社各社が一般のお客さま向けに投信の情報提供を行なうイベントやセミナー等への参加やグローバルの市場環境を通じ、お客さまの声・ニーズを反映した商品開発、資料作成に継続して取り組んでいます。
- 社内に動画撮影・編集を行うためのインフラの設置・整備を行ない、ファンド紹介・説明用動画の作成・提供、お客さま向けセミナーのライブ配信等に取り組んでいます。

#### 【図4】運用資産残高（単位：億円、投資助言を含む）



お客様のニーズに沿った商品の開発、品質管理の高度化に努め、お客様に信頼と満足をいただける商品・サービスの提供に取り組んでいます。

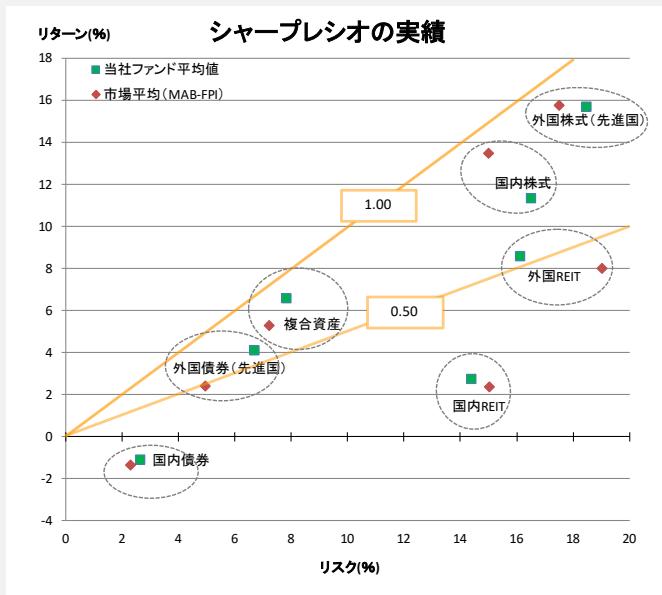
#### 【図5】ファンドアワード受賞本数



お客様、外部評価機関※からのさらなる評価向上に向け、クオリティの高い商品の提供に努めます。

※集計対象は、「R&I ファンド大賞」「リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワード・ジャパン」

#### 【図6】公募投資信託ファンドの運用資産別平均シャープレシオ（2024年3月末現在）



お客様の資産について、適切なリスクコントロールのもと、中長期的な成長を図ることを目標として、各アセットクラスおよび運用スタイルでそれぞれの特性を活かした運用を行ないます。

※対象の投資信託は、当社の公募追加型株式投資信託（除く ETF）です。

※シャープレシオとは運用成績を測る指標の1つで、ファンドの収益率から無リスク資産の収益率を引いた値をファンドの収益率の標準偏差で割った値で、運用効率の高さを示します。リスクは過去5年間の月次リターンの標準偏差の年率換算値で、リターンは過去5年間の年率換算後のリターンから無リスク資産（無担保コール）のリターンを引いた値です。

※本資料は、三菱アセット・ブレインズ（株）（以下「MAB」）が信頼できると判断した情報源から入手した情報をもとに作成していますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。また本数値は、信頼できると思われる各種データにもとづいて作成していますが、過去の実績を示すものであり将来実現することを保証するものではありません。

※市場平均は MAB 投信指数「MAB-FPI」から計算しています。

※MAB-FPI は、MAB が開発した日本の公募追加型株式投資信託全体の動向を表す日次投資収益率指数です。本指数に対する著作権等の知的財産その他一切の権利は MAB に帰属します。MAB は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。

## わかりやすい情報提供

- 公募投信における情報提供に関して、交付目論見書へのQRコードの掲載、任意開示書類の解説動画の定期配信等、お客さまへのわかりやすい情報提供に継続的に取り組んでいます。また、当社が想定するお客さまの属性および販売会社の特性に応じた適切な情報の提供に取り組んでいます。
- 当社ホームページでは客観的な情報を充実させるとともに、投資環境に関する定期レポートの発信等タイムリーな情報提供に努めています。また、お客さまに中長期的な資産形成により関心をお持ちいただけるよう、コラム等の親しみやすい情報発信も行っています。加えて、当社ホームページの作成、運営においては、導線やレイアウトの工夫等により、お客さまのご理解の促進と利便性のさらなる向上に向けた取組みを継続して行っています。
- 団体年金のお客さまへの情報提供に関して、プロダクト・マネジャーを中心に法人本部、運用本部、事務部門が連携して、運用報告資料等の高度化に向けた見直し・整理に継続して取り組んでいます。

## 利益相反の適切な管理

- お客さまの利益が不当に害されることのないよう適切な態勢整備を図り、利益相反を適切に管理することを目的として「利益相反管理規程」を定め、利益相反管理の推進・徹底を図る「利益相反管理責任者」をおいています。当規程では、管理されるべき対象取引を特定し、取引の中止等の各取引事例に応じた管理方法を具体的に定めており、利益相反管理責任者の指揮のもと、全社的な利益相反状況の把握・管理に努めています。
- スチュワードシップ活動における利益相反の管理強化を目的とした、独立社外取締役を主要構成員とする取締役会の諮問委員会「スチュワードシップ諮問委員会」の運営を行っています。2023年度は、当委員会を2回開催し、議決権行使結果および議決権行使プロセスに関する適切性、株式議決権行使に係る規程・ガイドラインの改廃に関する適切性等の審議を実施し、審議結果について取締役会へ報告しました。

## ガバナンス体制

- 監査等委員会設置会社として、監査等委員会やスチュワードシップ諮問委員会の安定的な運営等を通じて、ガバナンス体制・内部統制システムのさらなる深化に継続して取り組んでいます。
- 「お客さま本位の業務運営方針」に係る取組状況について、半期ごとに独立社外取締役が出席する取締役会へ報告しています。

以上